

平成25年度鳥取県食品衛生監視指導計画の実施結果

第1 計画の実施

(1) 期間

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(2) 根拠法令

食品衛生法（昭和22年法律第233号）

農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（昭和25年法律第175号）

米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律（平成21年法律第26号）

と畜場法（昭和28年法律第114号）

食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律（平成2年法律第70号）

農薬取締法（昭和23年法律第82号）

肥料取締法（昭和25年法律127号）

調理師法（昭和33年法律第147号）

鳥取県食品衛生法施行条例（平成12年鳥取県条例第17号）

鳥取県ふぐの取扱い等に関する条例（平成16年鳥取県条例第7号）

第2 監視指導の実施体制

(1) 実施機関

くらしの安心推進課は、食品衛生に係る事業方針の決定及び関係機関との連絡調整を行った。監視指導については、各総合事務所生活環境局、生活環境事務所及び食肉衛生検査所が行い、食品検査は、衛生環境研究所が行った。

(2) 関係機関との連携

ア 厚生労働省、消費者庁、内閣府食品安全委員会及び都道府縣市との連携
研修及び講習会に参加し情報交換を行った。

イ 庁内（関係部局）との連携

・市場監視

農林水産部市場開拓課と連携して、地方卸売市場6施設の監視指導を行った。

・イワガキの貝毒及びノロウイルス検査

農林水産部水産課及び県内の漁協と連携して、「イワガキのノロウイルス対策指針」及び「貝毒対策指針」に基づき、5～7月にイワガキの検査を実施した。

(3) 試験検査機関の試験検査体制の整備

衛生環境研究所において、厚生労働省通知に基づき、残留農薬及び動物用医薬品の試験法の妥当性評価を行った。

第3 監視指導の内容

(1) 監視指導

ア 保健所による立入検査

食品営業施設の監視指導を実施し、施設の衛生管理の向上に努めた。年間監視指導目標回数に対する目標達成率は90.9%であった。詳細は、表1のとおり。

監視指導目標回数(A)	監視指導回数(B)	目標達成率(B/A×100)
8,190	7,441	90.9%

イ 営業許可数

食品衛生法第52条に基づく営業許可（新規及び更新）について、施設の事前調査をして営業許可証を交付した。

事務所名	東部	中部	西部	計
許可件数	1,016	366	1,101	2,483

ウ 重点監視事項

食品衛生法違反施設、食中毒のリスクが高い施設及び広域流通食品を製造する施設に対しては、特に重点的な監視指導を行った。また、異物混入防止対策を重点監視項目とし、大量調理施設や給食施設に対して重点的に指導した。

エ 食品衛生法違反施設

食品衛生法に違反する施設は、以下のとおりであった。主な違反内容は、食中毒原因施設、異物混入、無許可営業などであった。違反施設に対しては適切に指導を行い、改善確認を行った。

	許可施設	不要許可施設
営業停止 (件数)	8	0
文書指導 (件数)	57	3

オ 表示対策

各総合事務所等で食品表示に係る相談対応を行った。また、不適正表示について通報のあった107件について適正化を指導した。

米及び米加工品を取り扱う事業者に対して、米トレーサビリティ法に基づく取引記録の作成・保存及び産地情報の伝達について指導を行った。

また、食品表示に関する講習会を56回開催し、2,225人の参加があった。

カ と畜検査

食肉衛生検査所において、と畜検査を実施し、食肉の安全確保に努めた。

と畜検査状況

	牛	馬	豚	めん羊	山羊	合計
頭数	7,808	0	83,677	11	0	91,496

キ 食中毒予防対策

全国植樹祭（５月）及び都市緑化フェア（９～１１月）の開催前に、飲食店や宿泊施設に対して重点的に監視指導を行った。

腸管出血性大腸菌、カンピロバクター及びノロウイルスの食中毒予防について、機会をとらえて重点的に予防啓発を行った。

ク 一斉監視

食中毒のリスクが高くなる夏期と食品の流通量が多くなる年末に一斉監視を行い、大量調理施設への重点的な監視指導や流通食品の表示の監視指導を行った。

（２）収去検査

主に県内の流通食品について、食品の安全性確保を目的に、収去検査を行った。検査結果は、表２のとおり。

ア 規格基準及び食品添加物の検査

481 検体を収去し、規格基準違反 5 検体、衛生規範不適合が 14 検体（洋生菓子）あった。

【違反内容】

対象食品	違反内容	措置
魚肉ねり製品（１件）	大腸菌群の検出。	製造者を管轄する自治体に通報した。
アイスクリーム類（２件）	大腸菌群の検出。	製造者に文書指導し、改善確認した。
発酵乳（２件）	無脂乳固形分が基準値を満たしていなかった。	製造者に文書指導し、改善確認した。

イ 残留農薬及び動物用医薬品の検査

県内農産物 51 検体及び輸入農産物 20 検体について、残留農薬の検査を行ったが、基準値を超えるものはなかった。

食肉 34 検体、鶏卵 6 検体及びはちみつ 5 検体について、動物用医薬品の検査を行ったが、検出されたものはなかった。

ウ 重金属の検査

玄米 6 検体について、カドミウムの検査を実施したが、検出されたものはなかった。

（３）魚介類の水銀検査

魚介類 20 検体について、水銀の検査を実施したが、暫定的規制値を超えたものはなかった。

(4) 食中毒対応

食中毒の発生リスクの高い施設について、重点的な監視指導を行うとともに食中毒注意報の発令及び食中毒予防のパンフレットの配布を行った。

平成 25 年食中毒の発生状況（詳細は表 3 のとおり）

発生件数	患者数	死者数	食中毒注意報発令回数
11 件	120 人	0	9 回（29 日）

第 4 自主衛生管理の推進

(1) 食品事業者による自主衛生管理の推進

食品衛生責任者講習会などにおいて、HACCP に基づく衛生管理手法の普及など自主衛生管理の推進を行った。また、事業者からの食品の表示相談にも対応した。

生食肉を取り扱う施設に設置が義務付けられている認定生食用食肉取扱者の講習を行った。

(2) とっとり食の安全認定制度の推進

鳥取県独自の HACCP に基づく食品の衛生管理認定制度である「とっとり食の安全認定制度」の導入を促進するため、事業者への働きかけを行い平成 25 年度は 1 事業者の認定を行い、認定施設数は延べ 16 施設となった。

また、事業者がより取り組みやすくなるよう要綱の改正（提出書類の簡略化）及び書類作成のためのガイドラインを公表した。

(3) 関係団体への協力

一般社団法人鳥取県食品衛生協会と連携し、食品衛生責任者講習会を開催した。条例に定める公衆衛生上の措置基準や食品衛生の基礎知識について普及啓発した。

また、市町村と連携し、食中毒注意報の発令時又は食中毒が多発する時期に住民への注意喚起を行った。

第 5 情報提供及び意見交換

(1) リスクコミュニケーションの実施

ア 食の安全推進会議

学識経験者、生産者、販売者及び消費者の代表である委員 12 名で構成される会議であり、3 回実施し、県の行う施策に対して意見をいただき、施策に反映させた。

イ 食品事業者を対象としたリスクコミュニケーション

内閣府食品安全委員会と連携して、11 月にリスクコミュニケーションを実施した。テーマは、ノロウイルス食中毒の予防と対策とし、参加者 38 名と意見交換を行った。

ウ 紙芝居を用いた食中毒予防啓発

保育園児を対象とし、保育園 21 施設に対して行った。紙芝居の実施に併せて手洗い指導を行い、保護者に対してパンフレットの配布を行った。

エ 食品衛生月間における一日食品衛生相談室

一般社団法人鳥取県食品衛生協会と連携して、東部、中部、西部の食品販売店において、食品衛生相談室を設置し、買い物客に対し食中毒予防の注意喚起を行った。

オ 食品キッズリポーター

小学生（3～6年生）を対象に、食品に関する自由研究を募集した。21 作品の応募があり、5 作品を優秀賞として県知事表彰した。

(2) 消費者への情報提供

夏期及び冬期の食中毒予防について、県広報、新聞広告及び新聞コラムに掲載した。また、県政テレビ番組及びスポットCMにおいて、食中毒予防の啓発を行った。

また、必要に応じて、ホームページによる情報提供及びパンフレットの配布(8,500部)を行った。

第6 人材の育成及び資質の向上

(1) 食品衛生監視員に対する講習会の実施

以下の研修会に参加し、最新の知見や技術の習得に努めた。

ア 鳥取県食品衛生監視員研修会（7/10）

イ 食品安全行政講習会（8/26-27）

ウ 食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者研修会（8/28）

エ 中国地区食品衛生監視員研修会（9/6）

オ 全国食品衛生監視員研修会（10/24-25）

カ 食中毒疫学研修会（3/5-7）

(2) 試験検査実施機関の体制整備

衛生環境研究所及び食肉衛生検査所において、一般財団法人食品薬品安全センターが実施した食品衛生外部精度管理調査（9項目）に参加し、良好な結果であった。

(3) 食の安全モニターに対する講習会の実施

東部、中部及び西部の各事務所において、県が委嘱した食の安全モニター48名に対する研修会を実施した。詳細は、別紙のとおり。

(4) 食品等事業者の自主衛生管理を担う者の養成

ア 調理師試験及び免許証交付

調理師法第3条の2に規定される調理師試験を実施した。また、試験合格者及び養成施設卒業者に対して、申請に基づき免許証を交付した。

受験者数	合格者数	免許交付件数
257	158	165

イ ふぐ処理師試験及び免許証交付

鳥取県ふぐの取扱い等に関する条例に基づくふぐ処理師試験を実施した。また、試験合格者には、申請に基づき免許証を交付した。

受験者数	合格者数	免許交付件数
19	16	13

ウ 表彰

食品衛生功労者 6 名及び食品衛生優良施設 5 施設に対し、県知事表彰を行った。

表2 平成25年度収去検査結果表

対象食品	検査項目	計画数	検査数	違反数
魚肉ねり製品	規格基準(大腸菌群) 保存料(ソルビン酸)甘味料(サッカリンナトリウム)	46	46	1
冷凍食品	規格基準(細菌数、大腸菌群、E.coli、腸炎ビブリオ最確数)	44	44	0
アイスクリーム類	規格基準(乳固形分、乳脂肪分、細菌数、大腸菌群)	15	15	2
氷菓	成分規格(細菌数、大腸菌群)	9	9	0
生食用鮮魚介類	規格基準(腸炎ビブリオ最確数)	30	30	0
ゆでがに	規格基準(腸炎ビブリオ、細菌数、大腸菌群)	17	17	0
清涼飲料水	規格基準(混濁、沈殿物、ひ素、鉛、カドミウム、スズ、大腸菌群)	12	12	0
そうざい(給食)	衛生規範(細菌数、大腸菌、黄色ブドウ球菌)O-157	70	70	0
そうざい(弁当)	衛生規範(細菌数、大腸菌、黄色ブドウ球菌)	55	55	0
洋生菓子	衛生規範(生菌数、大腸菌群、黄色ブドウ球菌)	60	60	14
発酵乳	成分規格(乳酸菌数、大腸菌群、無脂乳固形分)	5	5	2
乳飲料	成分規格(細菌数、大腸菌群)	1	1	0
浅漬	腸炎ビブリオ、大腸菌	6	6	0
食肉製品	成分規格(E.coli、黄色ブドウ球菌、サルモネラ、クロストリジウム、大腸菌群) 成分規格(亜硝酸根)保存料(ソルビン酸)	7	7	0
菓子	着色料(タール色素)	12	12	0
醤油	保存料(安息香酸、パラオキシ安息香酸エステル類)	15	15	0
	甘味料(サッカリンナトリウム)			
佃煮	保存料(ソルビン酸)・甘味料(サッカリンナトリウム)	9	9	0
漬物	浅漬以外:保存料(ソルビン酸)、甘味料(サッカリンナトリウム、アセスルファムK)	6	6	0
煮豆・漂白野菜	漂白剤(二酸化硫黄)	1	1	0
魚介類加工品	保存料(ソルビン酸)	1	1	0
容器・包装(合成樹脂製)	一般規格(溶出試験:重金属、過マンガン酸カリウム消費量)	9	9	0
	個別規格(溶出試験)			
	ポリエチレン(PE)及びポリプロピレン(PP)製:蒸発残留物			
	ポリスチレン(PS)製:蒸発残留物			
	ポリ塩化ビニル(PVC)製:蒸発残留物			
加工食品	アレルギー物質	27	27	0
加工食品	指定外添加物(アゾルビン・パテントブルーV)	9	9	0
加工食品	指定外添加物(TBHQ)	6	6	0
加工食品	指定外添加物(サイクラミン酸・ズルチン)	9	9	0
輸入野菜・果実	残留農薬	20	20	0
らっきょう	残留農薬	6	6	0
すいか	残留農薬	5	5	0
梨	残留農薬	10	10	0
ねぎ	残留農薬	5	5	0
玄米	残留農薬、カドミウム	6	6	0
ながいも	残留農薬	5	5	0
柿	残留農薬	4	4	0
ブロッコリー	残留農薬	5	5	0
だいこん	残留農薬	3	3	0
にんじん	残留農薬	2	2	0
はちみつ	残留農薬	5	5	0
鶏卵	動物用医薬品	6	6	0
鶏肉	動物用医薬品	10	10	0
豚肉	動物用医薬品	12	12	0
牛肉	動物用医薬品	12	12	0
	合計	597	597	19

表3 平成25年食中毒発生状況

平成25年12月31日現在

保健所 番号	No	発症日	届出日	発生場所 (原因施設等の所在地)	摂食者 数	患者数	死者数	食事特 定	原因食品	病因物質	原因施設	摂食場所	発生概要	発生原因	症状	対策
鳥取	1	1/14	1/15	鳥取市	40	15	0	会席料理(推定)	会席料理(推定)	不明	旅館	旅館	旅館で飲食を行った3グループのうち、1グループが嘔吐、下痢等の症状を呈した。	不明	嘔吐、 下痢	手洗いの実施及び食品の温度管理を徹底すること。
鳥取	2	3/10	3/11	鳥取市	55	15	0	3月8日に提供された食事(推定)	不明	サポウイルス	飲食店	飲食店	飲食した12グループのうち、2グループが嘔吐、下痢等の症状を呈した。	サポウイルスに汚染された食品による。食品の不十分な加熱。	嘔吐、 下痢	調理器具の使い分け(加熱用・非加熱用)を行う。加熱調理品は、十分に加熱する。
倉吉	3	5/9	5/9	倉吉市	1	1	0	ふぐの煮物	ふぐの煮物	テトロドトキシン	家庭	家庭	自分で釣ったふぐを自宅で調理し喫食したところ、脱力感等の症状を呈した。	ふぐ処理師免許を有しない者が処理したふぐによる。	脱力感、 しびれ 等	ふぐの素人調理は行わない。
米子	4	9/8	9/12	米子市	20	9	0	9/6の食事(推定)	不明	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	飲食店	飲食店で食事をした20名のうち9名が、発熱、おう吐、下痢等の症状を呈した。	カンピロバクターに汚染された食品による。食品の不十分な加熱。	腹痛、 下痢、 発熱、 嘔吐、 頭痛	食肉の生食はさけ、十分に加熱する。
鳥取	5	9/8	9/11	八頭郡	81	32	0	9/8に提供された食事(推定)	不明	カンピロバクター	旅館	旅館	旅館で食事を喫食した81名のうち、32名が腹痛、下痢、発熱等の症状を呈した。	カンピロバクターに汚染された食品による。非加熱用食品への二次汚染や環境中からの使用水への汚染などが推定される。	腹痛、 下痢、 発熱	調理器具の使い分け(加熱用・非加熱用)を行う。使用水の消毒装置を導入する。
米子	6	10/14	10/14	米子市	50	36	0	仕出弁当	仕出弁当	黄色ブドウ球菌(A型)	飲食店(仕出屋)	事業所	昼食の仕出弁当を食べた50人のうち36名が、嘔吐、下痢などの食中毒症状を呈した。	黄色ブドウ球菌に汚染された食品による。調理従事者の手指から食品が汚染されたと考えられる。	嘔吐、 下痢	徹底した手洗いの実施及び食品の適切な温度管理を行うこと。
鳥取	7	10/18	10/18	鳥取市	5	5	0	きのこの吸い物、天ぷら	きのこの吸い物、天ぷら	ツキヨタケ	家庭	家庭	山林で採取したきのこを家庭で吸い物や天ぷらにして食べた。(シイタケと間違えた)	毒きのこであるツキヨタケを食べたことによる。	吐き気、 嘔吐	確実に食用と判断できないきのこは食べない。

表3 平成25年食中毒発生状況

平成25年12月31日現在

保健所 番号	No	発症日	届出日	発生場所 (原因施設等の所在地)	摂食者 数	患者数	死者数	食事特 定	原因食品	病因物質	原因施設	摂食場所	発生概要	発生原因	症状	対策
米子	8	10/19	10/21	米子市	46	1	0	しめさばのあぶり棒寿司、刺身(推定)	しめさばのあぶり棒寿司、刺身(推定)	アニサキス	飲食店	飲食店	飲食店で食事をした1グループ46人のうち1人が激しい腹痛の症状を呈した。	アニサキスが寄生した魚介類を食べたことによる。	激しい腹痛、吐き気、嘔吐	魚介類を提供するときは、目視確認を徹底する。
鳥取	9	10/21	10/21	八頭郡	1	1	0	きのこ豆腐のみそ汁	きのこ豆腐のみそ汁	ツキヨタケ	家庭	家庭	自宅付近の山林で採取したきのこを家庭のみそ汁にして食べた。(ヒラタケと間違えた)	毒きのこであるツキヨタケを食べたことによる。	吐き気、嘔吐、下痢	確実に食用と判断できないきのこは食べない。
鳥取	10	11/26	11/26	鳥取市	1	1	0	ふぐの鍋料理	ふぐの鍋料理	テトロドキシン	家庭	家庭	知人からもらったふぐを調理して食べたところ、しびれ等の症状を呈した。	ふぐ処理師免許を有しない者が処理したふぐによる。	手足のしびれ、吐き気	ふぐの素人調理は行わない。
倉吉	11	12/24	12/29	倉吉市	4	4	0	12/22に提供された食事(推定)	不明	ノロウイルス	飲食店	飲食店	飲食店で食事をした4名のうち4名がおう吐、下痢の症状を呈した。	ノロウイルスに感染した調理従事者から汚染された食品を喫食したことによる。	おう吐、下痢	手洗いを徹底すること。トイレの消毒を徹底すること。